AD ALTIORA SEMPER

神戸市外国語大学 学術情報センターだより

vol. 52
2020年7月20日
【編集・発行】
神戸市外国語大学
学術情報センター

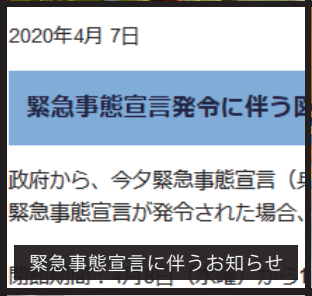
AD ALTIORA SEMPER（アド・アルティオラ・センペル）とは
ラテン語で「常により高きを求めて」という意味です

図書館裏のツバキ

閉館サイン

閉館中の館内

郵送サービス準備



緊急事態宣言に伴うお知らせ

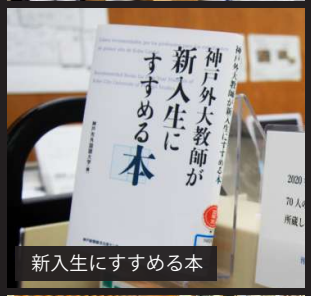
間引き後の椅子

郵送サービス準備

図書館横の桜

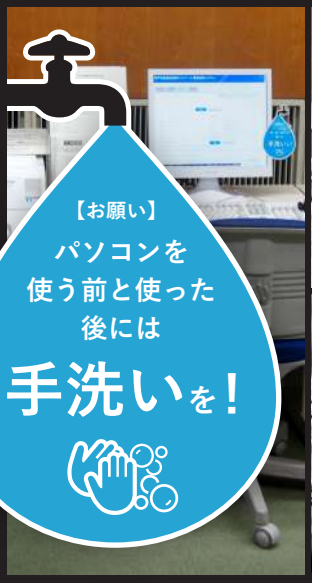
消毒用アルコール

閲覧室からの景色



新入生にすすめる本

テーブル間隔の確保



カウンターでの予防対策

間引き後の閲覧席

ゴム手袋・キッチンペーパー

学内のアガパンサス

冷房＋換気告知ポスター

利用制限サイン

コラム
『新型コロナウィルス感染拡大を受けて――図書館としての対応』… P.6

教えて！図書館
LA（ラーニングアドバイザー）って何？… P.4

『神戸外大教師が新入生にすすめる本』が刊行されました
… P.5　ほか

巻頭言

スペイン人による日本滞在記

イスパニア学科 教授　野村 竜仁

一昨年のことだが、スペインでの在外研究中に、スペイン人が著した日本滞在記について話す機会があった。スペイン人による日本の滞在記と聞き、フランシスコ・ザビエルの書簡や同じく宣教師であるハシント・オルファネールの『日本キリシタン教会史』、あるいはベルナルディーノ・デ・アビラ・ヒロンの『日本王国記』、さらにはロドリゴ・デ・ビベロやセバスティアン・ビスカイノの記録などが思い出されたが、求められたのがもう少し時代を下った近現代のもの、つまり明治期以降の記録だったため、現地の図書館で少し調べてみた。

外国人による明治期の日本滞在記と言えば、イザベラ・バードや小泉八雲のものなどがよく知られている。同時代のスペイン人では、外交官として1873年に来日したエンリケ・デュプイ・デ・ロームが二年間の滞在を経て、*Estudios sobre el Japón*をはじめとする日本に関する複数の書を著している。それらの中で日本の近代化を取り上げていることは想像に難くないが、当時スペインがフィリピンを領有していたことも関心を向ける要因としてあったようだ。スペイン側では、当初は地理的な近さゆえに市場としての価値を認めていたが、やがて日本の近代化による成果を一つの軍事的な脅威として見るようになる。同じく明治期に外交官として日本へやってきたフランシスコ・デ・レイノソも、二年間の滞在後、1904年に*En la corte del mikado: bocetos japoneses*（p.02画像左）という書を上梓している。こちらはデュプイ・デ・ロームのものと比べると、この時代の日本についてより総覧的に紹介している。

大正期になると、やはり外交官でマニラの総領事を務めていたフアン・ポトウス・イ・マルティネスによる記録がある。彼が訪れたのは関東大震災の直後で、その惨状について*Mi viaje por China y Japón*の中で触れている。この外交官と同じく震災について書き残しているのが、スペイン近代文学を代表する小説家の一人、ビセンテ・ブラスコ・イバニェスだ。『葦と泥』や『血と砂』などの作品で知られる作家は、1923年に世界周遊旅行の途上で日本に立ち寄っている。震災の傷跡も生々しい横浜港に降り立った後、その惨状についても触れながら日本各地の印象を*La vuelta al mundo de un novelista*の中で記している。この作家の特徴でもある色彩豊かな描写が随所に見られ、近代化とともに失われていく日本の風俗へのまなざしには、スペイン文学の特徴でもある風景描写を思わせる面もある。

ジャーナリストとしての活動も知られている作家ルイス・デ・オテイサも、ほぼ同時期に日本を訪れ、*En el remoto Cipango: jornadas japonesas*（p.02 画像右）などの滞在記を著している。ブラスコ・イバニェスが異邦人の作家としての自意識とともに歴史の転換点に立つ日本を叙情的に描出したのに対して、オテイサの記録には日本の社会や文化に関するより詳細な情報が盛り込まれており、艶笑的な側面を含めた軽妙さも特徴的だ。オテイサの饒舌な筆致は伝統文化のみならず近代化していく日本の活況を活写しているが、その後の歴史的趨勢はブラスコ・イバニェスが予見していたであろう暗い方向へと進んでいく。

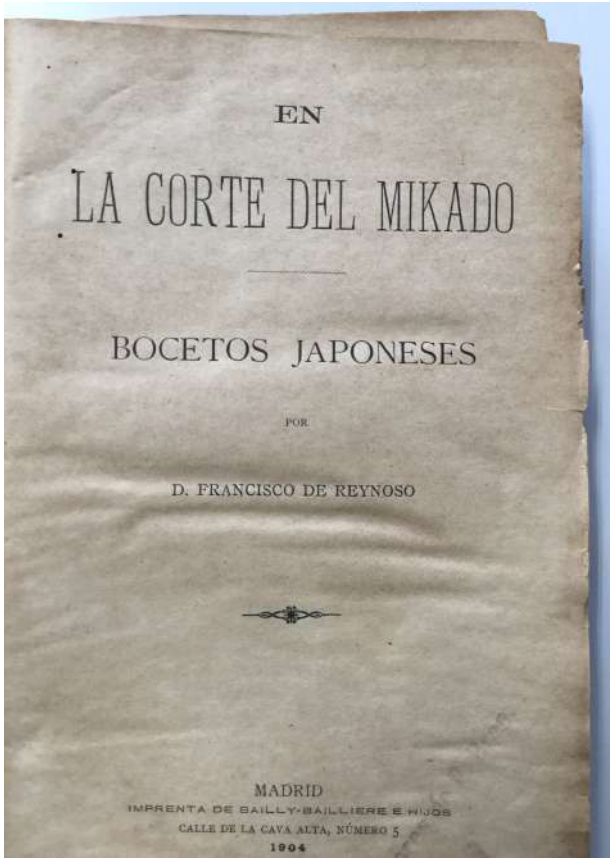
日本とスペインが暗澹たる時代を迎えると、日本を描くスペイン人たちのテキストもそうした時代性を反映していく。日本の滞在記として*Tokio, un español entre geishas*を著し、ジャーナリストしての活動も知られるガスパール・タト・クンミングは、日本のみならず満州国についても書き残している。タト・クンミングは駐スペイン満州国大使館とも関係があったとされている人物で、当時の世相の証言者である点でも、その記録は興味深いものと言えるだろう。

戦後の早い時期の滞在記としては、アントニオ・オルティス・ムニョスの*Un periodista da la vuelta al*

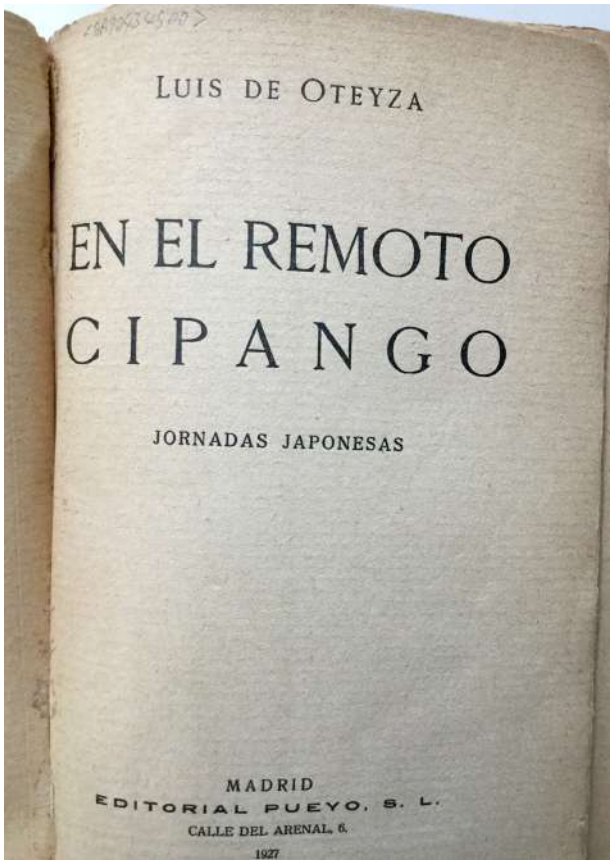
mundo がある。これはザビエルの日本到来 400 周年という節目を機に著されたもので、ザビエルの聖遺物を携えた使節が来日した際、オルティス・ムニョスはジャーナリストとして同行し、その記録を書き留めている。さらに時代を下ると、当時の人気作家であったホセ・マリア・ヒロネーリャの*El Japón y su duende* がある。友人である著名なギタリスト、ナルシソ・イエペスとともに日本を訪れ、みずからの見聞を記しているが、同書については小説家ならでは創作的な一面も指摘されている。

最近の例としては、スソ・モウレロが広島での滞在をつづった*Tiempo en Hiroshima* があり、同じ作家による日本滞在記 *En el barco de Ise: viaje literario por Japón* と同様、現代の日本の姿が日本文学への憧憬とともに素描されている。また身近なところでは、本学のモンセラット・サンス教授による *Frente al Pacífico* も、スペイン人による日本滞在記の一つと言えるだろう。

ちなみに日本人によるスペイン滞在記については、坂東省次著『スペインを訪れた日本人 エリートたちの異文化体験』および『スペインを訪れた作家たち』にまとめられている。



▲ フランシスコ・デ・レイノソ著
En la corte del mikado: bocetos japoneses (1904)



▲ ルイス・デ・オテイサ著
En el remoto Cipango: jornadas japonesas (1927)

文中紹介作品情報（図書館所蔵）

- **ベルナルディーノ・デ・アビラ・ヒロン著、『日本王国記』**
  （請求記号：N290.8-2-11）
- **ビセンテ・ブラスコ・イバニェス著、『葦と泥』**
  （請求記号：N080-13-724-1）
- **ビセンテ・ブラスコ・イバニェス著、『血と砂』**
  （請求記号：N080-13-724-2 ほか）
- **ビセンテ・ブラスコ・イバニェス著、*Japón***
  （請求記号：N291-256）
- **モンセラット・サンス著、*Frente al Pacífico***
  （請求記号：N302.1-222）
- **坂東省次著、『スペインを訪れた日本人 エリートたちの異文化体験』**（請求記号：N293.6-162）
- **坂東省次著、『スペインを訪れた作家たち』**
  （請求記号：N910.26-141）
- **ホセ・マリア・ヒロネーリャ著、*El Japón y su duende***
  （請求記号：N080-13-724-2 ほか）

著書紹介

〈世界の終わり〉でなく、終わりなき人びとの声を聞く

英米学科 准教授
松永 京子（まつなが きょうこ）

『北米先住民作家と〈核文学〉
―― アポカリプスから
サバイバンスへ』
松永京子（著）
英宝社、2019.5発行
図書館所蔵：N930.29-779

1945年以降のアメリカの小説や映画に触れると、実に多くの作品が核戦争や核兵器に言及していることに驚かされる。『未知への飛行』(*Fail Safe*,1964)や『X-MEN:ファースト・ジェネレーション』(*X-Men: First Class*, 2011)などのハリウッド映画、パット・フランクのベストセラー小説『ああ、バビロン』(*Alas, Babylon*, 1959) やティム・オブライエンの長編『ニュークリア・エイジ』(*The Nuclear Age*, 1985)等、核戦争、核兵器、核エネルギーを題材とした物語は枚挙にいとまがない。作品のテーマやジャンルは多岐にわたるが、これらの多くに共通する点をひとつあげるとしたならば、核戦争や核兵器によって〈アポカリプス〉すなわち〈世界の終わり〉がもたらされるかもしれない、という不安が根底にあるということだろう。

核によって〈世界の終わり〉がもたらされるかもしれないという不安が、アメリカ文化に大きな影響を与えてきたことは間違いない。一方で、核兵器や核戦争が世界の終末をもたらすというシナリオは、ともすれば核による破壊を〈未来〉の出来事として想定してしまうことで、実際に原爆が投下された広島や長崎、あるいはウラン鉱山、核実験、核施設、核廃棄物などによって影響を受けてきた人びとの声を聞こえにくくしてしまった。

そもそも原爆や核エネルギーを可能にしてきたのは、カザフスタン、カナダ、オーストラリア、ナミビアなどで採掘されたウラン鉱である。そして、ウラン鉱山が開かれた場所の多くは、先住民の土地であった。核実験や核廃棄物処理場計画もまた、先住民が居住したり利用したりしてきた土地が対象となることが少なくない。核の問題は先住民国家の経済的状況や自治権の問題とも深くかかわっているため、先住民のあいだにおいても核開発に対する意見は一枚岩ではない。それでも、先住民の土地における核開発を植民地主義政策の一環とみなし、抗議し続ける人びとの声は、常に存在してきた。

『北米先住民作家と〈核文学〉』が注目するのは、既存の〈原爆文学〉や〈核文学〉の枠組みからとりこぼされてきた北米先住民作家たちによる核をめぐる言葉や物語である。たとえば、ウラン鉱山で坑夫として働いた経験をもつ先住民族アコマ・プエブロのサイモン・J・オーティーズの詩「最下層からはじめる」。三〇年以上経ってもウラン鉱山の「最下層」で働き続けるアコマの人びとの姿を描いた本詩は、困窮した先住民を社会の「底辺」にとどめておくことで成り立ってきたアメリカ核産業の現状を浮かび上がらせる。

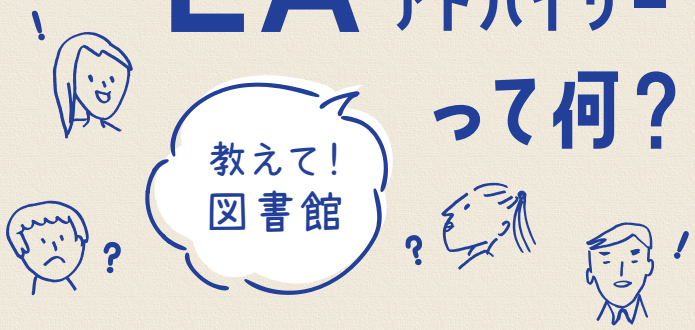
本書でとりあげる先住民作家たちの核をめぐる言葉や物語に、ぜひ耳を傾けてみてもらいたい。〈世界の終わり〉のイメージに支配される世界で、ときに静かに、ときに力強く、そしてときにユーモアをまじえて、多彩な声が終わりなく鳴り響いていることに気づくだろう。

その他の著書情報

伊藤詔子、一谷智子、松永京子編著、
『トランスパシフィック・エコクリティシズム：物語る海、響き合う言葉（*TRANSPACIFIC ECOCRITICISM : Narrating Ocean and Echoing Words*）』、彩流社、2019年9月発行
（図書館所蔵：N918.68-27-1 / 教員著作コーナー）

LA ラーニングアドバイザーって何？

教えて！図書館



Q. ラーニングアドバイザーって何ですか？

ラーニングアドバイザー（略称LA（エルエー））は図書館の大学院生スタッフです。学生のみなさんの学修支援、主にレポート・論文作成のサポートをしています。

Q. LAはどこにいますか？

図書館のラーニングコモンズ内のLA専用デスクに在席しています。

Q. まだ何も書いていないのですが相談できますか？

相談できます。構想段階でもお気軽にお越しください。

Q. レポートを書いたけれど、これでよいか不安です。見てもらえますか？

はい。書いたものを用意して、LA専用デスクにお越しください。論文の構成や論理の展開などを一緒に確認していきます。

Q. レポート/卒論のテーマに悩んでいます。相談してもいいですか？

もちろんです。一度LAデスクにお越しください。具体的な課題の内容や関心のあることなどを伺いながら一緒に考えていきましょう。

Q. 専攻語学のおすすめの習得方法を聞くことはできますか？

LAのプロフィールの「対応する言語」に専攻語学の言語が含まれている場合は、学習方法などを相談することができます。

Q. いつ相談できますか？

対面授業期間中の平日午後に在席しています。具体的な在席時間は図書館内の掲示物やチラシなどをご確認ください。

Q. 添削してくれますか？

LAはみなさんが自分で書くためのお手伝いをしています。文章を直接添削することはしませんが、一緒にお話をしながら、よりよい方法を考えていきます。

Q. 卒論で何万字も書けるか不安です。何から始めたらいいですか？

ぜひLAデスクにお越しください。卒論を経験した現役の学生は、学内では大学院生だけです。経験者の話を聞くことで、きっかけがつかめるかもしれません。

Q. 簡単なことを聞いてしまいそうで恥ずかしいのですが…

小さな質問も大歓迎です。LAは学生のみなさんと先生の間の橋渡し的な存在です。学部生の不安や困りごとも経験していますので、先生には聞きにくいこともお気軽にお尋ねください。

Q. 予約は必要ですか？

予約は必要ありません。在席時間にお気軽にお越しください。

Q. どんな人がLAをしていますか？

さまざまな研究分野の大学院生がLAをしています。詳しいプロフィールは図書館内の掲示物やチラシをご覧ください。LAは「学生のみなさんの役に立ちたい」という熱意を持って活動しています。お気軽に声をかけてください。

Q. 何を相談したらいいかわからないのですが…

そんなときはLAの経験談を聞いてみませんか。今後取り組むこと（レポート・卒業論文など）の経験談を聞くことで、もやもやしていたイメージがすっきりするかもしれません。

Q. レポートが苦手です。レポートをうまく書くコツを教えてもらえますか？

レポートのどんなところが苦手ですか。具体的なお悩みなどを伺いながら、苦手意識を乗り越える方法を一緒に考えていきましょう。

※ 2020年度前期は対面相談を休止します。再開は対面授業開始後を予定しています。みなさんと図書館でお会いできる日を楽しみにしています。

お知らせ

新入生へ教員からのプレゼント♬
『神戸外大教師が新入生にすすめる本』が刊行されました。

本学では、この春に迎えた新入生のためのブックガイドとなる『神戸外大教師が新入生にすすめる本』を５月下旬に刊行しました。『東大教師が...』というよく似た書名の本もありますが、所属する教員が選んだブックガイドを、大学が出版する例はあまり無いようです。

「すすめる本」の編集にあたっては、本学に関わる全ての教員にアンケートを行い、以下の４つのジャンルについて推薦本を挙げていただきました。最終的には70名の教員から、新入生への想いが込められた回答が寄せられました。

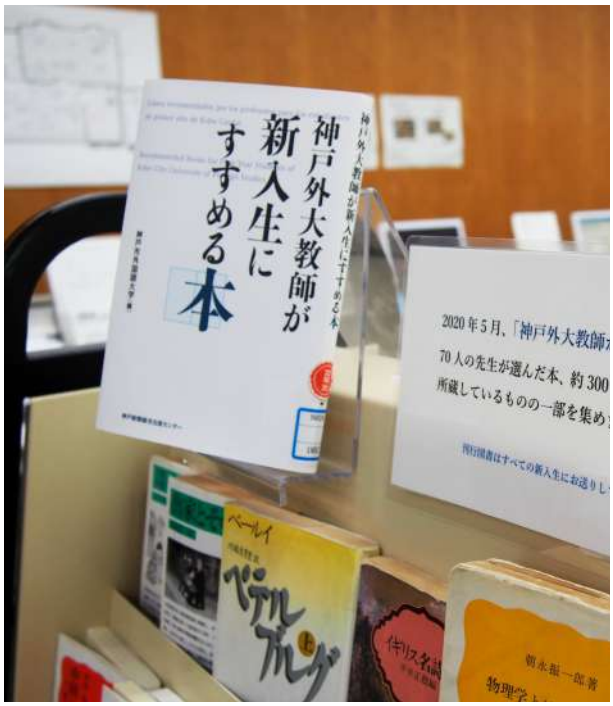
４つのジャンル

- これまでで最も心に残る書物、または新入生にぜひすすめたい作品
- これまでに読んで、新入生にもすすめたい文学作品
- 専門の分野で、新入生に読んでもらいたい入門書
- できるだけ多くの作品を読んでほしい作家、または著者

教員の皆さまに推薦いただいた本は多岐にわたり、これまで読んだことのない本はもちろん、推薦文を読むことで「もう一度」読んでみようという気にさせる魅力がこのブックガイドには詰っています。また、３人以上の教員が推薦された本もありました。それぞれの本への想いを較べてみてはいかがでしょうか？

3人以上の推薦があった本

- **『一九八四年』ジョージ・オーウェル著**
  （図書館所蔵：N933.7-379）
- **『深夜特急』沢木耕太郎著**
  （図書館所蔵：新潮文庫）
- **『罪と罰』ドストエフスキー著**
  （図書館所蔵：N080-13-613-5 ほか）
- **『わたしを離さないで』カズオ・イシグロ著**
  （図書館所蔵：N933.7-309 ほか）
- **『ハーメルンの笛吹き男』阿部謹也著**
  （図書館所蔵：N080-29-1-4-2 ほか）



▲『神戸外大教師が新入生にすすめる本』
神戸新聞総合出版センター、2020年5月（図書館所蔵：N019-193ほか）

さて、４月に入学した新入生には、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から入学式やオリエンテーションが中止となり、授業も原則オンラインで行われているため、このブックガイドを直接に手渡すことはできなくなりましたが、教員からのささやかなプレゼントとして自宅に郵送で届けました。

山口副学長の「これは、本学教員が皆さんのことを思い描きながら、自分の経験をお裾分けしたものです。この本が今年初めて刊行されたのは、何かの縁かもしれません。その冊子からぜひ大学を感じてください。」というメッセージが同封されましたが、入学したことを実感してもらうとともに、すすめられた本にそれぞれの教員の想いも感じてもらえればと思います。

学術情報センターでは、閲覧室入り口付近に「新入生にすすめる本」のコーナーを設置し、推薦された本を展示しています。必要があり、図書館を利用されたときにはご覧ください。

※在学生の皆さんには、後期授業の開始に合わせて配布する予定ですので、しばらくお待ちください。

コラム

新型コロナウィルス感染拡大を受けて ――図書館としての対応

新型コロナウィルス感染が拡大し、私たちの生活にも様々な変化が訪れました。図書館は３月上旬から利用を学内者に限定し、緊急事態宣言が発令された４月８日以降は臨時閉館となりました。当初は１か月程度の予定でしたが、結果約２か月の閉館という滅多にない長期の閉館となりました。

閉館後すぐに在宅学習に向けてオンラインデータベースの学外利用環境整備や情報提供を開始しました。４月頃から各出版社が様々なキャンペーンを開始し、本学では辞書・事典検索サイトのジャパンナレッジ、新聞データベースの聞蔵Ⅱが期間限定で学外利用可能に。４月15日からは図書郵送貸出サービス、文献コピー郵送サービスの提供が始まり、初日から多数の申込を受けました。また利用案内の一部刷新を行う等、サービス向上に努めました。

５月７日には緊急事態宣言の延長が発表され、それに伴い図書館の閉館も５月31日までに延長されました。閉館の延長に伴い、郵送サービスも１人１回までであった回数制限を２回に増やす等のサービス拡大を行いました。15日にはHP、Facebookで「司書のおすすめ特別編 在宅学習サポート連載」を開始しました。

６月1日からは約２か月ぶりの開館となり、消毒用アルコールの設置、座席間隔の拡大等、感染防止の体制を整えて利用者を受け入れました。同時に蔵書検索マイページ仮パスワードのメール発行、LA（ラーニングアドバイザー）によるオンラインサポートも開始。Facebookでも６月８日から「LA通信 在宅学習応援連載」を始め、院生からの在宅学習アドバイス等を発信しています。15日からは郵送サービスの第２期もスタートし、22日からは市民利用が再開されました。

【新型コロナウイルス対応タイムライン】

3.3	利用を学生・教職員に限定する
4.8	緊急事態宣言発令に伴い閉館
4.9	臨時閉館に伴い貸出中の図書の返却期限を開館後にする旨お知らせ
	ジャパンナレッジ無償アクセスサービスの提供開始
	Cambridge Coreにて高等教育の教科書約700タイトルがフリーアクセスに
4.10	学外利用可能なデータベースについて情報提供開始
4.15	郵送サービス開始
4.16	聞蔵Ⅱ無償アクセスサービスの提供開始
5.7	閉館期間を5月31日までに延長する旨お知らせ
5.8	Maruzen eBook Libraryにて一部資料のアクセス数が50に拡大
	市民利用者に向けて閉館期間を延長する旨お知らせ
5.13	郵送サービス拡大
5.14	ジャパンナレッジの無償アクセスサービス提供期間が7月末に延長
5.15	HP、Facebookにて司書のおすすめ特別編 在宅学習サポート連載を開始
5.28	6月1日から開館再開する旨お知らせ
	大学として学外者の入構を引き続き禁止するため、学外者の図書館利用は1日以降も再開されない旨お知らせ
6.1	開館再開
	蔵書検索マイページ仮パスワードのメール受付開始
	LAによるオンラインサポート(メール相談)開始
6.15	郵送サービス第2期開始
6.22	市民利用再開

図書館日誌《2019年12月～2020年6月》

2019年	12.11	図書館イベント「読みたい本１位を決めろ！第２回ビブリオバトル＠外大図書館」
	1.20-2.7	2019年度第３回Reユース
	3.23-3.31	蔵書点検
	4.7-7.31	展示「司書のおすすめD」第46回
	4.8-5.31	緊急事態宣言発令に伴い臨時閉館

在宅学習
サポート情報
発信中！

		AD ALTIORA SEMPER vol.52 神戸市外国語大学学術情報センターだより 第52号
ISSN		0919-2336
編集・発行		神戸市外国語大学学術情報センター
		〒651-2187 神戸市西区学園東町9丁目1
		TEL：078-794-8151 / FAX：078-797-2257
		URL：http://www.kobe-cufs.ac.jp/library/
発行日		2020年7月20日
発行責任者		センター長　芝　勝徳